

アースクールさがみはら(NPO法人さがみはら地球温暖化対策協議会)は個人・事業者・団体・市が連携・協力しながら、日常生活に起因する温室効果ガスの排出削減などのために必要な対策の協議や活動を実施し、地域の地球温暖化対策を推進していきます。

「SDGsさがみはらエコ宣言」登録事業者を募集しています!

当協議会では、令和2年度より「SDGsさがみはらエコ宣言」をスタートし、令和7年2月までに154の事業者・団体の皆さまにご登録いただいています。

この取り組みは、国連が提唱する持続可能な開発目標(SDGs)の中でも、特に地球温暖化の抑止に関わる活動に着目し、事業者の皆さまが自ら実践できる内容を「エコ宣言」として掲げていただくことで、温暖化対策に主体的に取り組んでいただくことを目的としています。

ご登録いただいた方には、津久井産材紙を使用した「エコ宣言書」をお届けします。事業所や店舗の入口などに掲示し、温室効果ガス削減への取り組みを広く発信していきましょう。

また、他の事業者・団体の皆さまがどのような取り組みを行っているのかは、今後の活動の参考としてもご活用いただけます。詳細や申込方法については、協議会のホームページをご覧ください。

「SDGsさがみはらエコ宣言」は現在も登録を受け付けております。地域全体で持続可能な社会の実現を目指して、ぜひご参加ください!



ホームページ



寄附金の募集について

当協議会に1,000円以上の寄附をしていただいた方に下記のペットボトル再生素材で作ったエコバッグまたはさがぼーくんのぬいぐるみどちらか1つを進呈しています。寄附のお申し込みは、下の当協議会事務局まで。



地球温暖化防止の講座やイベントを実施しませんか? 公民館や学校、自治会などに伺って実施します。 ぜひ、お申し込みください。



- ☆地球温暖化対策のお話
 - ☆ソーラークッカー、ソーラーランタンなどの楽しい工作教室
 - ☆地球温暖化クイズ、ジャンボかるた大会など
- 詳細は下記までお気軽にお問い合わせください♪



ソーラークッカー

「ストップ! 地球温暖化 ~環境にいいことをみつけよう!~」 令和8年6月28日より作品を募集します。 詳細については、あらためてお知らせします。

動画コンテスト

会員募集中

アースクールさがみはら(NPO法人さがみはら地球温暖化対策協議会)に入会して、温暖化対策と一緒に取り組みませんか?市外の方の入会も可能です。当協議会は脱炭素に向けた活動を活性化するために、新たに賛助会員、学生会員の募集を開始しました。ぜひ、ご入会をお待ちしております。

正会員	個人	1口1,000円(1口以上)	事業者・団体	1口1,000円(2口以上)
賛助会員	個人	1口2,000円(1口以上)	事業者・団体	1口2,000円(5口以上)
学生会員	個人	1口 500円(1口以上)	団体	1口 500円(2口以上)



アースクールさがみはら(NPO法人さがみはら地球温暖化対策協議会)
〒252-0236相模原市中央区富士見1-3-41エコパークさがみはら内
TEL/FAX: 042-753-9550 Eメール: info@s-ontaiyou.jp



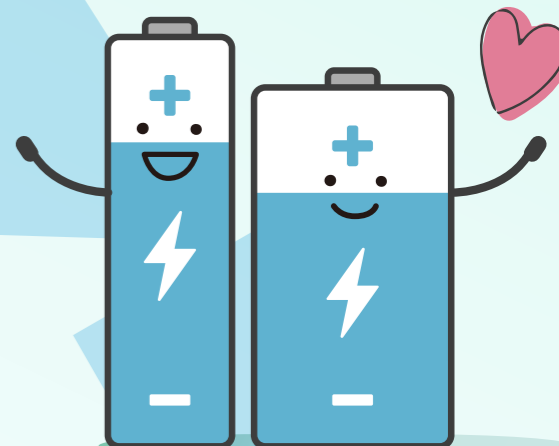
循環型エネルギー社会へ

~リチウムイオン電池リサイクルがもたらす温暖化防止効果~

地球温暖化と リチウムイオン電池の関連性

リチウムイオン電池は、さまざまな用途で活用されています。電池を活用して「電化」*が進むことには、エネルギーコスト削減、効率向上、再生可能エネルギーの活用促進といった利点があり、地球温暖化の抑制にも繋がると考えられています。またリチウムイオン電池の主な材料の物質は、リチウム、炭素、マンガン、ニッケル、コバルトなどで、有害金属のカドミウム、鉛、水銀などの物質が使用されていないことにより比較的環境負荷が低いと言われています。リチウムイオン電池を活用した製品の一例として、電気自動車があります。排気ガスを排出しないため温室効果ガスの削減に繋がります。リチウムイオン電池の環境負荷を低減するためには、リサイクルやリユースの推進が重要となり、製造過程でのCO₂排出量の削減やより環境に優しい新素材の開発が求められています。
*電化とは、化石燃料を使う機器や仕組みを電力に置き換えることです。

リサイクルしよう



リチウムイオン電池回収の重要性

使用済みのリチウムイオン電池が適切に処理されずに廃棄されると、ゴミ収集車や廃棄物処理施設などでの火災発生の危険性があり、また、リサイクルできる貴重な資源が失われてしまいます。モバイルバッテリー・スマートフォン・電動アシスト付き自転車・コードレス掃除機・携帯扇風機などに使われているリチウムイオン電池は、衝撃・熱・破損・変形により発熱・発火する危険性があり、住宅、宿泊施設、公共交通機関などで発火する事故が全国で多発しています。このような事故を防ぐためにも、回収・リサイクルを進めることが重要であり、また資源循環を促進し、環境負荷を軽減するという点で、地球温暖化対策の一環といえます。リチウムイオン電池を含む製品を処分する際は、自治体の回収ルールに従って、適切に分別・回収をお願いします。小さな行動が、未来の地球を守る大きな力になります。

【相模原市の小型充電式電池の回収対象】

- リチウムイオン電池 ●ニッケル水素電池
- ニカド電池 ●モバイルバッテリー本体

【回収方法】

- ①リード線・端子部・コネクター・電極端子の金属部分などを全てシールで覆った絶縁処理を必ず行って、次の回収施設の窓口へお持ち込みください。
 - 橋本台リサイクルスクエア ●麻溝台リサイクルスクエア
 - 津久井クリーンセンター
- ②電気店などの回収協力店
 - 電池種類が明確なもの
 - (一社)JBRCの会員企業製
 - 破損、膨張などの異常がなく、外装がラミネートタイプでないもの。

このリサイクルマークが目印です。



みんなて
地球のために...



「どんな商品に使われているの?」

コードレス家電(充電式掃除機など)・デジカメ・電話機(固定・携帯・スマホ)・ノートパソコン・タブレット・モバイルバッテリー・携帯扇風機・加熱式たばこ・おもちゃなど

駐車場で発電する「ソーラーカーポート」

～ユニディ相模大野店のソーラーカーポートを視察～

スーパーなどの外の駐車場に駐車すると、雨の日は買ったものを積み込むときにびしょ濡れ、夏の晴天には車内がサウナのように暑くなっている、そんな経験はありませんか。駐車場に屋根があったら便利でしょう。その屋根をソーラーパネルで作ったのが「ソーラーカーポート」です。建物の屋上にソーラーパネルを設置する場合は荷重の課題がありますが、駐車場はその心配がありません。スーパー、病院、公共施設などにソーラーカーポートがあれば、雨の日や強い日差しから利用者を守ってくれるし、電気を作ってその施設で使えるので電気の地産地消になり、地球温暖化防止の役にも立ちます。

相模原市のホームセンター、ユニディ相模大野店に2024年12月に大きなソーラーカーポートができました。アースクールさがみはらの創エネグループでは2025年夏に視察をお願いし、設置者のユニディ様と施工・管理のしろくま電力(株)様に話を伺うことができました。太陽光発電の出力は201.6kW、広さは車64台分です。発電した電力(203,206kWh/年)はすべて店舗内で消費しており、店舗の電力使用量の20.7%をこの発電で賄い、年間91.6tのCO₂排出を削減する見通しです。雨の日や夏の暑い日はとくにお客さまに好評のようです。

この先電気料金が今より安くなることは考えにくく、これからは経済性からも電気の自給を考えるほうが現実的です。環境省には事業者・団体向けの「駐車場を活用した太陽光発電設備(ソーラーカーポート等)等の導入支援事業」の制度もあります。(令和7年度は公募終了)

ユニディ相模大野店は自費による設置ですが、PPA※という方法で初期投資なしで設置することも可能です。相模原市内には企業や工場、スーパー、病院、公共施設など多くの車が利用する駐車場がたくさんあります。ソーラーカーポートが普及すれば市内の再エネ拡大と地球温暖化防止に大きく役立つことでしょう。

※PPA(Power Purchase Agreement)とは電力販売契約のことで、需要家(企業など)が所有する屋根や遊休地などを発電事業者(PPA事業者)が借り、無償で発電設備を設置し、発電した電気を需要家が施設で使うことで、設置に係る初期投資が不要となり、CO₂排出の削減ができます。



ECOだね!



第20回さがみはら市民活動フェスタ

2025.10.5(日)
「湘野辺公園」

秋の暖かな日差しのもと湘野辺公園中央広場で開催されました。当協議会のブースでは、「地球温暖化防止に向け自分が出来ること」の一つ選んでシールを貼ってもらった後、くじ引きをして、さがぼーくんぬいぐるみ、エコバック、ボールペン、ティッシュなどの景品を差し上げました。「電気の仕事」実験では子供たちが手回し発電を回してランプの点灯、プロペラの回転、音が鳴ることを確認して電気が発電している様子を体験していました。また太陽光で料理が出来る「ソーラークッカー」の展示や「ペロブスカイト太陽電池(シート状太陽光パネル)の紹介」パネル展示を行い、地球温暖化防止を呼びかけました。



バス見学会

2025.7.31(木)
「がすてなーに ガスの科学館」

小学生と保護者合わせて20名の参加をいただき、江東区豊洲にある「がすてなーに ガスの科学館」の見学を行いました。前日に起きた地震の影響で予定していた(株)JERA川崎火力発電所の見学は中止になりました。発電所の見学を楽しみにしていた参加者の皆さんにはとても残念な結果となりました。

「がすてなーにガスの科学館」では、謎解きクイズラリーを初めいくつかのイベントが開催されていて、大人も子どもも楽しみながらエネルギー、環境、防災を学べる施設でした。

また、遠い海外の地下から採掘した液化天然ガスが、私達が日常使うガスになるまでの行程を模型などで展示されていて興味深く見ることができました。

参加された小学生のアンケートでは、「楽しかった」「勉強になった」「体験で伝えてくれて分かりやすかった」との意見が多く見受けられました。

保護者のアンケートでは、「わかりやすい展示、体験型の展示で楽しめた」「生活を見直すエネルギーの知識を得ることができた」「火力発電所は見学できず残念でした」などの意見がありました。

参加された皆様のご意見を参考にして、来年度も楽しめて勉強にもなる見学会を企画したいと思います。



会員研修会

2026.1.16(金)
「エコパークさがみはら」
(Zoomを併用)

講演会「脱炭素地域づくりの実現に向けて」

国立環境研究所社会システム領域システムイノベーション研究室
平野 勇二郎氏

本講演では、近年の脱炭素の動きや再生可能エネルギーの活用拡大について、具体的な事例を通じて学ぶことができました。特に、東日本大震災が地域のエネルギーのあり方を見直す契機となったことを踏まえ、東松島市、新地町、浪江町、葛尾村などで進められている、再生可能エネルギーを軸とした復興の取り組みが紹介されました。

なかでも、福島県新地町における「地域でつくったエネルギーを

日産わくわくエコスクール (日産自動車株相模原部品センターと共催)

2025.8.23(土)
「日産自動車株
相模原部品センター」

相模原SDGs EXPO

2025.11.30(日)
「青山学院大学 相模原キャンパス」

気候変動×防災 安心してくらすために (エコパークさがみはらと共催)

2025.12.20(土)
「エコパークさがみはら」

講師：田辺 希氏(気象予報士・防災士)
小峰 聖治氏
(NPO 法人太陽光発電所ネットワーク神奈川地域交流会)

出前授業

今年度は、市内小学校3校の3年生に加え、イオンチアーズクラブの子どもたちを対象に、環境学習の出前授業を実施しました。小学校では、大沼小学校(10月7日・2クラス70名)、緑台小学校(11月6日・2クラス52名)、中央小学校(12月17日・2クラス59名)の3校を訪問し、1クラス2時限の講座を実施しました。(欠席者あり)

1時限目は「地球温暖化O×クイズ」。児童はO×プレートをを使って積極的に参加し、多くの子が正解するなど、温暖化への関心や理解の深さを感じられました。

2時限目は「ソーラーランタン工作」。太陽光パネルで充電できる仕組みを体験しながら、再生可能エネルギーについて学びました。完成したランタンを手にした子どもたちの笑顔が印象的でした。

イオンチアーズクラブでも同様の内容を実施し、クイズや工作を通して、楽しみながら地球温暖化や太陽光発電について理解を深める姿が見られました。

また、講座の最後には、さがぼーくんの小さなぬいぐるみをプレゼントしました。後日、緑台小学校の児童一人ひとりから心温まるお手紙をいただき、スタッフ一同の励みとなりました。



地域で使う」という地産地消の取り組みは、二酸化炭素の排出削減にとどまらず、地域経済の活性化や災害時のエネルギー確保にもつながる好事例として、大変興味深い内容でした。

受講者からは、「福島の具体的な事例が参考になった」「地域で再生可能エネルギーを支える仕組みの難しさと、地域事業者の果たす役割の大きさを実感した」といった声が寄せられました。また、「相模原市でも補給廠返還地を活用し、ペロブスカイト太陽電池などの新技術を取り入れたエネルギーの地産地消による地域づくりに期待している」といった感想もありました。

